

肝付町地域創生戦略策定審議会会議録

肝付町地域創生戦略本部ワーキンググループ意見

■第1回肝付町地域創生戦略策定審議会会議録

日時 平成27年7月10日（金）午後1時30分から

場所 肝付町役場コミュニティセンター婦人研修室

委員 19名出席 3名欠席

1. 開会

事務局 ただ今から第1回肝付町地域創生戦略策定審議会を開催いたします。

2. 委嘱状の交付

事務局 はじめに委嘱状の交付に入らせていただきます。肝付町地域創生戦略策定審議会第3条に基づき、肝付町地域創生戦略本部部長であります町長が、交付いたします。本来であれば、お忙しい中快く委員の職をお引き受けくださいました皆様一人ひとりに委嘱状をお渡ししたいところですが、代表して肝付町商工会長福永等様に受領していただきたいと思います。

3. 町長あいさつ

4. 委員紹介

事務局 それでは、ここで委員のみなさまを紹介したいと思います。

事務局でお名前を読み上げますので、紹介された委員におかれましては、ご起立の上、一言ごあいさつをいただきたいと思います。

5. 委員長・副委員長選出

事務局 肝付町地域創生戦略策定審議会設置要綱第3条に基づき互選となっておりますが、選出方法についてご意見があればお願いします。
（事務局案はないか）

事務局 ただいま事務局案はないかということでございました。ほかに意見がないようでございますので、事務局から提案してもよろしいでしょうか。
（異議なし）

事務局 委員長に 佐々木幸久肝属木材事業協同組合理事長、副委員長に 福永 等肝付町商工会会長を、提案させていただきます。
（意義なし）

それでは佐々木幸久様には、議長席に移動していただき、会次第6、協議事項の進行をよろしく願います。

委員長 ただいま委員長を務めるように皆様から推挙いただきました佐々木でございます。町長さんもおっしゃいました様に私どもの旧高山町あるいは内之浦町、大変私らが子どものころは大きな町でございました。旧高山町は、私の自宅から小学校までの間には、もう今は考えられない様な店がたくさんありました。例えば紳士服のあつらえのお店、映画館、それからカバンや靴を自ら作るお店もありました。もうそんな店は、今や跡形もありません。

数年前還暦同窓会が関東のほうであり、関東関西方々から数十名の人たちが集まりましたけれども、みなさん立派な大人になっていまして、これだけの人が地元から都会に移ったんだなあということを改めて非常に強く意識付けられて、ある意味ショックを受けた感じがします。

あの当時の高度成長の波にのりまして、よく言われた就職列車に乗って中学校卒業とともに都会に移り、あるいは高校卒業して志望の会社に勤めてといった形でみなさんそれぞれ苦労しながら厳しい競争を勝ち残って、立派な人生を送っていたようにございますけれども、もし、彼らが町に残っていれば、今みんなどんな生活をしていたか、どんな方々と付き合いをしていたか、果たしてどんな地元貢献をしていたのかなと思えば、そうした人たちの活力が地元からなくなったことを改めて感じております。

これから先この町がこのまま現状で維持できるかどうか、そういった事が非常に大きな課題になるかと思っておりますけれども、役場の方で色々と案を作っているの聞いておりますので、その案にここにいる皆さんの知恵を加えながらいい提案になってきて、いい国の政策が決まりますことを願っております。時間的に制約がありますけれども、皆様のご協力を頂戴いたしたいと思います。よろしくお願いいたします。

6. 協議事項

委員長（ここから議長） 会次第6. 協議事項に入ります。事務局の説明を求めます。

事務局 (1) 審議会の役割についてと(2) これまでの取り組み状況についてについて一括して説明いたします。

議長 ただいま事務局から説明がありましたが、質疑と意見交換の時間はどの程度とってあるのでしょうか。

事務局 5分くらいです。

議長 5分しかないということですが、何かございませんか。

委員 1つだけ聞きたいのですが、この若手のワーキンググループは、そこでまとめたものを戦略会議で諮るということですが、それで、このワーキンググループのメンバーを見たときに林業関係が入っていないようですが。

事務局 若手のワーキンググループの構成は、今のところの案であります。従って、他におられれば増える可能性もあります。

委員 いや、例えば林業関係でいえば、私なんかも事業実施主体ですから若手もいっぱいいます。その意見も吸い上げて、初めて今まで分からなかった所も色々見当の余地があるのではないかと思います。

事務局 了解しました。メンバーに加えます。ワーキンググループは他にあれば教えていただければ、非常にこちらもありがたいです。

委員 現状把握が一番必要だと思う。その現状を今いくつか意見が役場の若い人たち

から出ていると聞いていますが、今日はここに上がっていないので何とも言えないが、役場職員と一般の企業で勤めている方とは、意見に若干差があるのではないのでしょうか。スケジュール表を見たら10月までに決めないといけないというようなことが書いてありますが、予算の関係で今年の事業のためにある程度作らないといけないという理由は分かりますが、もう少し時間を置いて、今の肝付町の現状がこうだと示してもらって、その解決方法を議論した方がいいと思います。

また、アンケート調査が1500人を対象と聞きましたが、なかなか、意見は出にくいものなので、振興会を利用して、これからの肝付町の一番大事な課題だと思うので、住民ひとりひとりからの意見をできるだけ吸い上げるような形をとった方がいいのでは。

議 長 事務局、どうですか？

事務局 現状把握につきましては、各部会現状を把握してからスタートしましょう、現在どんな予算が組んであるかそこから分析しましょう、等協議も進めているので、今回はちょっと提示しませんでした、次回は必ず提示できるので、次回までに事前に配布したいと思います。

それから、アンケートについては、統計上の一定の必要数として500という数がとれれば、それ以上とってもアンケート結果に大きな差はないというデータに基づき、回収率を勘案して1500実施した所であります。

議 長 議長の立場で、言うのもなんですが、先ほど委員が心配されたように自分たちの意見が反映されないのではないかと心配がありましたが、役所の中だけで色々議論するのではなく、それぞれ現場へ行って意見を聴取して、また、アンケートだけではどうしてもつかめない部分もあるので、議会もそうだろうし、あるいは公的立場の人、自分の会社がある人など、そうした所をいくつか訪問や出て来ていただくなりし、実態を調査してみたほうが良いと思います。ただ仕事を作るといっても抽象的過ぎるのではないのでしょうか。

ある程度、個別の事業体及び個別の企業の実態把握をして、今後の企業強化あるいは事業増大をどんなイメージで各事業体がもっているのか、そういう実態を取り入れると具体的な「地方にしごとつくる」議論になるのではないかと思います。

多分、書類やアンケートだけでは実態は見えないのではないのでしょうか。

事務局 アンケートは人口ビジョンのアンケートであるため、人口の動きに限定したものであります。戦略に関しては、そういう形で出来ればいいのですが・・・

議 長 住民代表の方から何かあれば

委 員 はい。私はこっちに来てまだ7年で、私も年配のパートさんを雇っていますが、働いてくれる人をハローワークでやっとみつけて来てもらっています。他の同様なＩターンの方もけっこう雇用でなかなか見つかりづらい状態とかがやっぱりあ

ります。

今まで肝付町に来てから長い、その間で何をやって失敗してダメだった、企業人として何をやって失敗してダメだったか、歴史的なところをあまり知っていない状況です。いろいろな会で町の課長級から上の人がある程度まとめて出してくれるんですけども、今までのバックグラウンドをよくわかっていないので、これでもいけるのかな、その審議とか私ができるのか、あまり知識がないという点もあるけれども、出来れば最初若手の人が出してくれたものを見れば、実現可能かどうか見れ勉強できるので、助かるのですが。あと、全部まとまっていきたい案を出してもらうより、ある程度ふくらんだものを提案してもらえると助かります。

議長 今これで見ると9月ぐらいに骨子が出来るとなっていますが、出来れば8月にそんなまとまったものでなくていいから、あらすじのものが出せば、この場で皆さんと思いや意見をしゃべってもらい、それを反映したものをまとめたものとして9月に出せばいいのではと思います。

事務局 了解しました。庁舎内で出ている意見について、次回始まる前までには示したいと思います。

議長 次回はもうちょっと議論の時間をとってもらって、委員一人一言ぐらいは発言できるようにしていただきたい。みなさん色々発言したいことがあると思うので。以上で議事の方は終了します。

本日の協議事項は、これで終了。議長退席

7. 堀尾容康経済産業省九州経済産業局地域経済部長による講演

事務局 佐々木委員長様、ありがとうございました。

ここで、会次第7の講演に入りたいと思います。

本日講演をしていただくのは、先ほど紹介いたしました、堀尾容康（ひろやす）さまでございます。堀尾様は、経済産業省九州経済産業局地域経済部長職にあられ、本日は国の立場で、地方創生について講演を賜りたいと思います。

では堀尾様よろしくお願いします。

講演終了

ありがとうございました。

事務局 これをもちまして、本日の審議会を閉会いたします。

また、次回よろしくお願いいたします。本日は、誠にありがとうございました。

■第2回肝付町地域創生戦略策定審議会会議録

日時 平成27年8月12日（水）午後1時30分から

場所 肝付町役場コミュニティセンター婦人研修室

委員 15名出席 8名欠席

下清水久男大隅森林組合代表理事組合長が第2回から委員に追加
人口ビジョン策定事業者が参加

1. 開会

事務局 ただ今から第2回肝付町地域創生戦略策定審議会を開催いたします。

2. 委員長あいさつ

委員長 本日2回目の会合ですが、その間に若手によりますワーキンググループがあり、なかなか活発な意見が出て、非常に頼もしく思った次第です。出来ればこのワーキンググループの会合が2ヶ月前に開かれていれば、実に多くのさまざまな疑問をテーマに進められたのになあと非常に悔しく残念で成りません。また、委員の方々からもいくつか提案があるようですが、聞くところによると今日の会合を持って固めて後は事務作業にはいるという非常に忙しいスケジュールの様でございます。出来ればあと1回欲しかったなあという気がいたします。

しかしながらある一定の成果を出佐内と事務作業が出来ないので、今日は何らかの結論というか方向性のある程度まとめられれば良いかなと思います。

よろしくお願いします。

3. 協議・意見交換

委員長 私が出した意見について説明します。前回の資料を一部訂正した。1つは林業の活性化を一番目に上げて、高山にある県信連の共販所 25000 立方しか集めていないが、地域の森林の能力から言ったら10万立方は集めなければならない。ではその需要があるかという参考の欄に記載しておりますとおり、これからの5年間の間に CLT というのも含んで新規に14万立方ぐらいは新しい需要があると見込んでいる。これは丸太判断です。2万5千に10万増えて売り先がないということにはならないこれをひとつは大きな〇〇にすべきではないか、かつ、お金に換算するとそれを素材生産業者、製材業者それぞれが6,70円ずつ出し合って10コ当たり、まあ〇〇をつくるとこれで2千万円のお金が集められる。宮崎ではこういう制度を採っています。鹿児島はまだやっていません。したがって鹿児島でもこういうお金をそれぞれの業者がある程度拠出することで林業に関するさまざまな開設とか森林をまとめるとかそういったことが可能になる。

2番目は再三出ましたが、閉鎖した町の商店街、ちょっと古い店をどうかするのではなく、思い切って空き家を全部整理してそこに人が住める3~400人ぐらい住めるようなアパート、それに保育所がついて、食堂があつて、喫茶店があつて、ちょっとして浴場があつて役場の出張所があつてというあらゆるものが集合した商店街の建設、1階は商店、2階から4階までが CLT でつくった住居であれば、上の住人が下で買い物をするので最低限の売り上げは確保できるシステムになる。今の状況はお客さんがいないから閉店せざるを得ないわけだから。さらに、そこ

に外から人が来るようになると、店舗が進出するのではないか。その時入居の条件として商品の一部は地元の農林水産物の利用であると付せばどうだろうか。

3番目はあちこちに学校跡地があるが、うまく改造して居住できるようにして今生活保護といわれているいわゆるセーフティネットの方々をこの居住地に100人前後ほど住んでもらい、自給自足型の集落を形成するのはどうか。生活の糧は遊休農地や森林を耕作伐採して、その方々の自給自足で賄う。その施設整備の費用は生活保護費をあてる。今現金支給のシステムは年金の競合、最低賃金との競合の問題が非常に大きい。そこで現物支給型のセーフティネットに切り替えるように国に提言するのも良いのではと思っている。

最後には楠集中・高が出来たわけですが、今のままではなかなか地元の出身者が入り込むのは難しいような気がするので、町内の学校の教育レベルを上げることで、1割・2割の生徒が地元から入れるようなことは出来ないかと思ったところである。

委員 この間もらった資料を基に、項目ごとに整理した。やはり地元にしごとを作るには、大隅半島は第1次産業がメインだと思っている。肝付町もそのとおりだと思う。そのためには1次産業で儲かる仕組みづくりが大事である。それがなかなか難しいようなので、打開策として見解を書かせてもらった。

この地区はいろんな作物が日本で一番初めに出来る。旬の作物が日本で一番早く出回るということを考えたとき、この作物を大阪、東京などの都市圏にいち早く持っていくことでいい値段で引き取ってもらえるのではないかと考える。そのシステムを行政が中心に開拓していくことが必要では。そして同時に物流コストも下げないと収益につながらないのでそれも含めて検討していく。あと特色ある農産物の栽培ということでは、一般的にはどこでも出回るような作物でも良いのだが、イタリアンやフレンチなどで使うような野菜がだんだん一般的になってきて一般家庭でも使えるように出回ってきているので、そういう高価格のある作物をこの風土で何が出来るか研究していくのも良いのではないだろうか。

次に寒い時期に安価なエネルギーの活用ということでバイオマス発電で出される熱をうまくハウス栽培等に使うことでエネルギーの価格の少ない低いところで光熱費の負担軽減で競争力高い作物が出来るとはならないかと考える。後は後継者がいないところの耕作放棄地を安い値段若しくは無償で借り上げる、貸し出すことで収益につながっていくのでは。耕作機械については特に年1回や2階しか使わないようなものが多いと聞いているが、価格が非常に高いので、農家負担が大きく、もうけにつながっていかないと聞いているので、そういうところは一括して使わなくなった耕作機械や新規購入した機械を、そういう方々にレンタルするシステムが出来ないか。

それから、40代から60代の引きこもりへの対応というのがあったが、対応

が必要なほど深刻な問題なのかどうか分からなかったので質問として記載した。水産業の発展、畜産業の発展については、高山に来て１年半になるけれど、農作物もある、水産物もある、畜産物もあるという全てがそろっている珍しい場所だと考える。そのメリットを活かさない手はないと思うので、農業だけではなく、水産や畜産も同じようなレベルで力を入れてやっていくべきだと考える。林業の維持発展については、今委員長からあった意見と同じである。

物産館については、以前も話が合ったように聞いているが、私も今までいろんな物産館を見てきているが、非常に収益を上げているところがある。ただそういうところは特色のあるやり方をしており、契約農家しか収めさせないが、その契約農家に対する指導も非常に厳しいものがあり使える農薬の制限とか、時期の問題とか全て報告性にしてあったりしてあるため、顧客が非常に安心して安くて新鮮なものが手に入るということで、小さな物産館だが、年商３億ぐらいあげているところもある。ですからやり方次第と思うが、高山の中心地に、農作物だけでなく水産物、畜産物も一緒に取り扱うような直売所をつくるべきだと考える。そしてそこで、その食材を使っておいしい食べ物を提供するレストランのようなものを併設することで、家族連れも来るし、リピーターも増やせることが出来るし、近隣の町内外から人を呼ぶことが出来るということで、昼間人口を増やすことが出来ると思う。

人の流れが出来るということが一番の目的だと思うので、それと合わせながら１次産業に携わる方々の収益収入の向上につながると思うのでぜひ検討していただきたい。

続きまして新しい人の流れをつくるということですが、ここでは旧商店街の再生ということでいろいろ６次産業化でつくるということも考えているが、野菜でも水産物でも畜産物でもあまり商品として成立しないようなものも出て来ると思うが、それを使って安くて新鮮でおいしい食事を提供するような機会をつくれれば良いと考える。

あと再生可能エネルギーの活用ということで、前回堀尾部長から聞かせて頂いて私の中では非常にインパクトがある内容で、この大隅地区が再生可能エネルギーのポテンシャルが非常に高いということをはじめて知ったわけですが、今回提案に入っていないので、ぜひ中・長期的に前向きに入れるべき項目だと思う。直接雇用が生まれることはないが、町の収入の増、行政サービスの充実、税負担の軽減に結びつけて住みやすい住環境の整備をすることで肝付町に住もうかという人が増えるのではないだろうか。人口増を求める上で再生可能エネルギーをうまく使っていくべきであると思う。

観光客の誘致については、内之浦の岸良、辺塚地区、非常に癒されます。こんな良いところはないと話される方も多いです。そこを活かした観光誘致は出来な

いか、一考の価値はあるのではないかと考えるのでぜひ検討をしていただきたい。

楠隼中高に第二フェーズとして男女共学も検討していく、それはやはり平等に教育を受ける機会を与えるという意味でも、教育はやはり将来的にも必要な部分ですので、挙げさせてもらった。

出生率を上げる戦略中で、私の中では産婦人科がないことだと考えるので、ここだけでなく鹿屋を含めた、大隅地域全体の問題と思われるので、安心して子供を育てる環境をつくることが何よりも先決だと考える。

あと、出来ちゃった婚の推奨ですが、授かり婚と訂正があり、内容の説明があったが、行政が旗を振ってやるべきなのか疑問である。

委 員 私の組合は現在自分も含めて40名程度雇用している。毎年緑の雇用というところで採用しており、条件を肝付町在住で募集しているが、その募集方法は限界にきている。誰もいないので、条件を町外まで広げているが、よほど条件をよくしないとわざわざ田舎までは来ない。だから、提案の通り支度金や空き家を改造して家賃を安くするから来ないかといえ来るかもしれない。そうしたら人口増も可能であると思う。

林業の現場の話になるが、内之浦地区は他地区と比較して林道がほとんど入っていないので、山があってもそこから木材を持ち出すことができない。これを機会に林道の開設をしてもらったら、林道が一本開設されたら10人20人ぐらいは雇用ができるのではと思う。それが該当するかどうかははっきりしたら後の計画もあるようである。それと農業は恵まれているが、林業と漁業はほとんどそういう動きがないので、町単独でも今回の創生資金でもいいので検討してもらえたらありがたい。

委員長 提案があったのはこれで全部ですか。

事務局 はい。

委員長 ほかの方の意見をお願いします。

委 員 一回目に来れなくて申し訳ありませんでしたが、議事録や資料を読ませていただいたが、今日の話がいいなあと思うが、一つ一つはいい提案だが、具体的にどうするかというものが少ない気がする。自分の立場で言わせていただきたい。

先ほど物産館の話、観光の話、の話が出ましたが、また、社会福祉協議会も新たにどこに作ろうかという話も出ておりましたが、物産館は農林水産物を販売するのでいいなと考えるので、錦の里の話を少し知っているので、話したい。

あそこは単なる農家の皆さんが、水産関係は別だが、売れ残りは出荷者が持ち帰り、手数料を10～15パーセント払っている。そうしているうちに昨年度の駅の指定を受けた。今回もっと大きくしたいとかんあげておられるが、そこに出荷されているある加工業者の会長さんと知り合いだが、その方は70歳以上で、従業員もそれ以上の方が多く、その方々の給料が払えるぐらい売れている。やはり

発想の違いかなと思う。一つの商品で10何人が生活できるようなことができるとはすばらしいと思う。その意味では肝付町は農林水産全てにおいて産地ですごくいいということは自他ともに認めている地域だと思う。自然を壊さず魅力あるまちづくりにするというのを情報局の関係者とよく話をするが、仕事柄いろんな取材で、農林水産業で所得を上げるためにやっていることは、いい値段で売れなければならない、そのためには中間マージンがない物産館や直販所大事だと思う。そしてその場所は人を呼ぶという意味で、富山がいいと思う。

富山の県道を挟んで東側に町営住宅があり、西側にサテライトきもつきがあるが、そこを東側は住宅街、西側を商店街や病院街にすれば地元だけでなく、鹿屋に通勤する人もいることから人も増える。今セブンイレブンができていてあの一帯を町が買い取って物産館にしてくれればいいなと思っていた。なぜなら縦貫道が近いし車が非常に多い。町外の人が一番通る場所である。中心部に作っても町内の人を買うという単なる便利な物産館にしかないのでは。富山に物産館を作り、観光協会、情報化センター、その他人を呼び込める施設があれば1か所に集約して2階を事務所、1階を店舗にして、肝付をPRできる場所にそんな施設を作り、農林水産業の皆さんが少しでも所得があがって、それを活用できる使える段階までもっていく必要がある。私は60を超えていますが、私より若い人で農業をやっている人はあまりいない。それを考えると、今の人がどうしたら裕福になり所得向上がつながるかが先決である。そのためには金が必要で、金がないとできない提案だと思う。富山の地域性を生かすべきである。

委員長 ありがとうございます。ほかの方はいかがでしょうか。

委員 資料の11ページと13ページですが、11ページでは内之浦総合支所をCCRCを言っているが、13ページでは別なことを言っているが・・・

事務局 今は部会同士の調整をしていないので、同じ施設で目的が違った施策が上がったりしている。どちらをどうするかというのはまだ決まっていない。今から調整します。

委員長 何か農林水産業関係でないですか。

委員 今までと重なる所はありますが、なかなか職員もいなく従業員も欲しいのですが、努力はしているが給料面についてもいろいろ問題点があるので。水揚げがあがらないところが問題である。皆様の意見を聞きながら何とかしないといけないなと思っています。

委員長 農林水産業分野での雇用の確保ということですね。

委員 たとえば内之浦で新鮮で安くおいしい魚料理を食べさせる、人を呼ぶようなことは難しいのでしょうか。えっがね祭りがありますが、それ以外にもう少し安く新鮮な魚を売り物に出来ないか。鰯でもさばでも。「千円ちょっとくらいでこんな料理が食べられるの！」っていうようなものを提供すれば、たぶんいろんな

人が来るきっかけになると思う。

委員 おっしゃることは分かりますが、湯之谷温泉で提供しているが、４千円でも儲けはないのが実情である。町からの助成でもあれば安く提供できるのだが。

委員 伊勢えびはあってもいいと思う。それ以外の新鮮な魚を提供は出来ないものなのか。

委員 「梅雨した鰯」祭りというのものもあるが、今年は出来なかった。魚は取れるときと取れないときがある。今年は取れたので提供します。今年は取れなかったので提供できません、ということが出来ない。伊勢えびはある程度量が確保できれば商売になるため、何とか毎年提供できている。ただし、魚類と違って料理方法に高度な技術がいる。

委員 内之浦とか岸良、辺塚あたりの景勝が素晴らしいので、ああゆうところでちょっとした食事が出来ればとても良いと思ったものだから提案したところである。伊勢えびは伊勢えびで大切にしながら、他の魚介類でお客さんや観光客をもっと呼べるのではと思ったものだから提案したところである。

委員 その点については、われわれ漁協と観光協会といろいろ話をしながら、やっていこうと思う。ただ、その年で獲れるものがなかなか見えてこないものだから。これから観光協会とも話しながらいいい方向で進めていこうかと思う。

委員長 他の住民代表の方の意見はないですか。

委員 私は内之浦ですが、出生率が低くて増やすというのは分かるが、生まれてから中学校、高校、高校からがお金がすごくかかって通学するにも、どこに行くのにも大変である。それから若い人たちが家を建てると思ったら鹿屋か高山とかに出て行ってしまう。それは、高校に行くのに通学に親が連れて行かないといけないうことで、住宅面で考慮して高山や鹿屋に家を建てるので、ますます内之浦に人がいなくなる。今小学校でも１０人程度で、１０年ぐらいたら半分くらいになっていると思う。

それを考えたときに中学や高校になるときの助成までとはいかなくても、通学の面や親の負担の面を考えて欲しいと思う。

出生に関する助成金をいわれているが、内之浦は特別で内之浦からは鹿屋高校でも距離が２０ｋｍを超えるとバイク通学も禁止、昔は下宿をしていたが下宿代も高い。だから、若い人が内之浦に残って子供を育てても、子供が大きなたらどうなるのかということ自分たちの年代ではよく話をしている。

委員 いろいろ先輩方からの意見を聞いて思ったところだが、これからの肝付町を後世に繋げていくためにはいろんな物を作ることと外から肝付町に人を呼び込む戦略も大事だと思う。よく外国人の方も、よそから帰ってくる方も、道がわかりにくいかと言う方が多い。ですから高速道路降りた後、町内まで通る色んな場所に行く間の看板設置とかいたらどうか。

私たちもよそに行くときに分かりやすい場所って言うのはだいたい高速から降りてここですよと言うのがある。そこが行き易い場所なので、そこに物産館とか作れば流通があるのではないかなと思ってます

あと、教育の面で楠隼中学のことだが、大体楠隼中学に地元の子が行くには畠の塾に行ってる子達が 4.5 名いる。県外の子どもたちが非常に多く、塾に行ってしっかり教育を受けている子たちだけが試験に合格するのであれば、今の現状のままの地元の小中学校での教育では合格することは無理かなと思う。だから、そこに入学するというよりも地元の小中学生と交流する機会を多く与えてもらって、県外からの子どもたちも呼び込んで今小学校中学校もいろいろありますので、山村留学ではないですけどもそういう手もあるのかなとおもう。

委員 すいません 一言いいですか。

あの、高山漁協が国の儲かる漁協で金額が提示してありますよね。

まあ、それが高山漁協で最後の貸付だと聞いておりますけれども、われわれも国や県のほうに模索しながらそれなりの船を整える、そういった資金がないのかちょっと模索しているが、なかなか見当たらないとゆうような状況である。人件費がかさむものですから、15 名を 10 名体制にして、人権費を削減して、そして、近代設備でやっていこうというようなやり方で続いている。

そして今後のやり方そして今までのあり方、漁協についての愛着をもってやっていただきたいと従業員に話したところである。

我々としては二つに一つの選択を迫っているところある。もし、ここに国からの大きな金額が提示されるのであれば利活用していきたいなと考えているが、模索している状況である。もしそれがこの交付金で出てくればいいのだが。

委員長 はい。ありがとうございました

役所、会員さん以外の銀行のかた協議会のかたなにかございませんか

委員 あのここできもつきコミュニティ放送ということで出席しているが、私のほうは今公共事業を対象にした経営をやっている。提案事項があり中身を見たが今現状はこうであって、こういった施策は必要な、といっぱい書いてあるが、具体的にどうするのかというのがなかなかみえてこないのが実情だと思う。けれども、ただあの、佐々木委員長や篠崎支店長が答えられた様に、まあある程度具体案になってきていると思うが、全体的な考え方としては、まず地産地消というのを私は大事にしたいと思っている。今日は、実は花火大会があがる予定だったが、花火大会はみんな地元商工会の人たちが費用を出しているが、買い物は地元商工会では買わないという人たちが結構いる。我が家もそうだが、串良のタイヨーとか鹿屋で買い物はして、それで花火大会は地元で上がるやつを見ているが、この花火大会の使用費をどこが出しているのかというようなことを町民皆が自覚し、地元の商工会で買い物をするという雰囲気町民全体に作らないといけないのかな

と思う。

それと健康寿命を延ばすというのが大事である。仕事が65 ぐらいになったら定年になり、仕事がなくなる。なくなると体を動かさないののでだんだん年をとる。ですから若い高齢者といっているのか分かりませんが、そういう人たちに仕事がある体制づくりっていいですか、一番いいのはさっき出た一次産業で、田んぼも相当遊んでいますよね。一回米や飼料をつくって田んぼも遊んでいるので、それを利用して事業かにつなげて、そういった仕事がない人たちの雇用の場を作ってほしいというのがひとつある。

それから、物産館は私も賛成です。場所とはかかるとして、地元の人が地元の品物を買う場所があると、顔を合わせたりすることでコミュニティも広がるし、そのことが町の活性化につながっていくのではないかなと思う。

最後に、資金面が大事だと思うが、もちろん金融…の支援も必要だと思うし町の支援も必要だと思うが、一人で出すのはなかなか大変なので住民でまあもちろん出せる人に限りますけども、それなりの会社の社長さんたちがいっぱいいらっしゃると思いますので、その人たちの資金を集めて、そうすると出した人は例えば私が出したとすればうちの会社の社員もそこで品物を買うようになると思うので、そういう体制作りができないかなと思う。

委員長 はい。では、国交省の副所長さん。何かないでしょうか。

委員 わたしも今年の4 月に配属された状況ですが、今私ども国土省で力を入れているのはスプロット効果という言葉は公共事業費を投入して、道路とか鉄道とか空港とかといった施設が出来て、地域に貢献するというようなことをいろいろしているところであるが、その施設そのものがどうかというところいろいろあるが、大隅に関して、昨年12 月に東九州自動車道が、鹿屋串良まで開通して大隅半島と高速がとつながったということで、私はそれまで福岡にいたが、非常に大隅の地域は福岡に住んでいる人間からすると遠いというイメージがあったが、今回福岡から来まして4 時間で、今まではもっとかかっていたが、道路がつながるということは時間短縮にもなるし、我々の感覚からすると普段の活動範囲が少しずつ広がっていく感じがします。今までこんな所、こんな所って失礼な話ですけども、来られるような環境になってきたのかなってゆう部分がある。先ほども言われたように地域の方々が遠くに行く部分もあるし、遠くの人たちを肝付のほうに呼ぶようになってきている。私事ですけど、先週の土日に熊本の上の兄貴が遊びに来ました。何しに来たかという、肝付においしい肉屋があると調べて来て、私が肝付にいたからですが、そういうことを目的に来る人もいます。今の動きなども情報も発信しておりますので、町のそんな情報を発信することによって、遠くの人が簡単にというか、今まではなかなか足を伸ばせなかったのが、道路がつながっていますので、今からが段々伸びしろ事情の多い地域として思っている。あの積

極的にほかの地域比べて今までなかなかできなかったこともできるのではないかなと思う。

委員長 ありがとうございます。

まだみなさんのご意見を聞いてないですが、事務局のほうからだいたい15分遅れていますので次のテーマにうつって、その後なんとか時間捻出できたら最後のほうでまた意見をいただき、ひょっとすれば一部集約する必要があるかもしれませんのでそのときは自分が重点とするのは何かと一言ずついただくかもしれませんので、それは念頭にいられていただけたらと思う。

それでは2番目の人口ビジョンの中間報告に移ります。

事業者 人口の推移について昭和30年をピークに減少、世帯数は昭和60年をピークに減少。肝付町はすでに昭和60年に高齢化社会になっている。人口減少について旧町とも人口減少は進んでいるが内之浦地区は激しく、高齢化率も内之浦は50パーセント近くになり、高山でも35パーセントとなっている。

人口ピラミッドで言うと、女性の高齢化が特徴的で80歳前後がとびぬけて多い。20歳前後が最も少ない。

自然動態と社会動態を見ると、出生数より死亡数が多く、転入数より転出者数が多い。昭和14年に1回転入と転出が逆転しているが、それ以外は演出が多い。自然増と社会増の関係だが、赤の数値が自然増減数でこれは出生数から死亡数を差し引いた数値、青が社会増減数で転入数から転出者数を差し引いた数値で、表を見ると平成14年に1回プラスになっているが、その後はどちらもマイナスを推移している。

結婚・出産の状況だが30歳代で平成12年と平成22年を比較して、ポイントが増加しており、晩婚化や未婚化が進んでいることがわかる。一方で特殊出生率は1.886人と多く、増加傾向にある。

人口移動お年齢別を見ると、大都市以外はどこも一緒だが、進学就職による転出が多い。子育て世代の移動が活発にみられ、60前半でUターンで増えているが、それ以降町外の子供のところ等への転出がみられる。

どこに動いているかという、60歳以下は県内からの転入が多いが、60歳代では県外からの転入が多い。転出についてはほとんどが県外への転出である。鹿屋、鹿児島からの転入、転出が多い。問題は転入より転出が多いということである。

産業動向では、国、県と比較して1次産業の従事者が多いことがわかり、年齢別でみると高齢化が進んでいることがわかる。では若い世帯がどこで働いているかというと、情報通信や金融・保険関係が多い。

将来推計人口を行ったものだが、国立社会保障・人口問題研究所が出した推計値では2060年には7,000人を切るというデータが出ている。この減り幅

を少なくする必要がある。そこで町が独自に推計をした結果が14ページに出ているが、ケース1からケース3までであるが、触れる数値は人口移動率と合計特殊出生率しかないので、まずケース1からケース3とも合計特殊出生率を2030年に人口を長期的に一定に保てる水準である2.1を目標に推計した。そしてケース1では人口移動率を社人研の規定値を使用、ケース2は年齢別転出者が最も多い年齢区分の転出者を25パーセントに抑制、ケース3ではさらに50パーセントに抑制したもので推計した。そうした場合で、社人研の数値より減少率がすくなくなったことが分かった。いずれも転出者を増やす努力、出生率を上げる努力をしていかなければならない。

今後は戦略との関係を比べながら、中身を作り上げる必要がある。

委員長 ありがとうございます。なかなか厳しい状況であることが認識していただければと思います。3番目の地域経済部副部長さんの説明に入りたいと思います。

委員 厳しいことを言うかもしれませんが、いろんな市町村から相談がある。資料を2つ準備してある。一つは事例集なので省略し、審議会と書いた資料を説明する。こういうことをやったらいいかなあと思って作った資料である。地方創生の問題は5年間で交付金を準備しましょう、この交付金で仕事をやってくださいとっている。今日の資料を見るとアイディアはいいが誰がするのかがない、誰が使うのかがない。物産館の話が出たがハード事業には交付金は出ない。物産館そのものはいい。ソフト事業でどこまでできるかである。

なんでこんなことをしないいけないのか6つのテーマで記載した。

1. 肝付町にはどんな資源があるか。
2. どんな組織があり全員参加で役割と出番を作る。
3. 資源・資金・資産・人材が循環しないといけない。特に移住対策が必要。
4. 官民が連携する。志布志港と連携するなど。ロケットに行っても金はおちない。
5. 持続化が必要。人材づくりである。時間がかかる。肝付情報局がある。利用すべき。
6. 最後が自立である。稼ぐ肝付町。エネルギーのまちづくりなど。高齢者の出番を作り、小さいときから郷土を語れる心をはぐくむ。

人口流出の大問題は何か。税金を払う人がいなくなる。人口が減って何が起きたか。学校が減った、商工会の会員が減った、それを分析してそのためにどうすべきかがわかる。事業所数も減ると税収が減る。

ただし人口減少は鹿屋の高校をみれば鹿屋高校は8割が進学である。鹿児島や福岡である。毎年減っているのは高校生である。地元就職したいが職がない。だから仕事を作ることが必要。そのためには新しい事業をしましょうということになる。名物を作りましょう。そのためにはお金がいります。その提案が「きもつき未来事業支援補助金制度」の創設である。以下、新型交付金のアイディアに

ついて提案の説明

- ・地元企業が高校へ出前事業する。
- ・移住定住を実施する団体の創設。
- ・特産品開発や物産館の管理をする肝付ふるさと公社の設置
- ・後継者バンクの設置。後継者がほしい企業と候補者のマッチング
- ・きもつきの料理の開発と販売。いっきょに山形屋で売る。肝付ふるさと料理コンテストの実施（子供たちのアイデアを取り入れるなど）

例えば魚は地域資源である。地方創生はその釣り方、さばき方である。その釣り方に交付金をもらって工夫をするということである。

委員長 説明を聞いて、地方創生の仕組みがわかったような気がする。

一人だけ質問を受け付けましょうか。

委員 ハード事業は出ないのか。

委員 ならない。例えば物産館の建設費は出ない。人件費も対象にならない。

委員 何が対象になるのか。

委員 製品の開発費用などである。

委員長 先ほど新規雇用の話が出たが、そういったものを支援する施策はこの中にはないのか。

委員 雇用を作り出す仕組みづくりには出る。ただし雇用については別な助成がある。

委員 きょうの提案に対象になるようなものがあるか。どこらあたりか。

委員 きもつき未来支援制度というのは・・・

委員 そうではなくて今日の意見の中のどこが対象になるかだが・・・

委員 近代的な設備はならないのか。ならないのだったらこの会に出席する意味がない。

委員 誤解されておられるようですが、今回の地方創生は新型交付金とかありますが、その使い道だけではなくて、地域をどうするか、自分たちのまちをどうしていくか戦略を立てることである。その戦略の中で交付金を使えるのものがあるかどうかであり、交付金の対象でなくても戦略として肝付町で優先度が高ければ一般財でやる方法もあるし、他の方法でやる方法もある。交付金だけで考えてしまうと変な方向に行ってしまう。肝付町がいい方向に行くにはどうすべきかというのを皆さんで議論してもらうことである。

事務局 町民と一緒に頑張って5年後をどうしていけばいいか、さらにその5年後どうしていけばいいか考えていくことであり、その中で特にソフト事業として今までできなかった部分を取り組むが、交付金を使えるものがあれば使いたいということである。

委員 ものすごいい意見(戦略)があれば単独でも出す気があるか。

町長 議論の中で優先順が大切だと思うし、戦略的に必要であるとなれば、単独とい

うより国、県と相談しながら取り組んでいかなければならない。

委員長 4番目の上乗せ交付金の取り組みについてお願いします。

事務局 資料はありませんが上乗せ交付金。平成27年度で上乗せ交付金というのがあります。限度額1町で3千万から5千万円の交付金で、平成26年度の追加交付分として、タイプ1タイプ2とふたつあります。資料は成清副部長の資料の11ページにあります。市町村にたいして限度額3千万から5千万円のタイプ1、タイプ2の場合は1千万までですが、今回はタイプ1方をぜひとりに行きたいというのが大きな目的であります。

とりにいくには、審議会の中で今まで出たような具体的な事業をもんでいただき、その中で評価がたかいものを申請したいと考えることから、資料による(1)から(3)までの要件があります。

一応この今まで色々でた中で事務局からと部会からでた意見の中で、意見の組み合わせも考えます。色んな事業のための準備のための計画の費用、計画を策定する費用というのもあります。具体的な計画については、事務局でも案があるが、皆様の意見を聞いてからのほうがいいと思って協議の提案をしたところである。

委員長 これは今日出さないといけない話なんでしょう？

事務局 はい。提出の期限ですので、それまでにある程度具体的にこういうものといった意見があれば欲しいということである。例えば中心市街地の活性化を今後の大きな目的としてそのプランを作った方が良いのではないかと、再生エネルギーの大きな施設を作る方向で良いのではないかと、そういった方針のアイディアをいくつか出していただけたらありがたい。それをこちらのほうで整理をして、次会に示すということを考えている。

委員長 すると考えられる項目いくつかどうかわかりませんが、それを示してもらって、最終的にはこれだけ人がいらっしゃるわけだから、それぞれのみなさんの重点をおくところを言ってもらって、それを高位順で考えるとするしかないのではないだろうか。何か皆さんありますか？

委員 何か事務局はないのか。

委員長 案を出し合って審議したほうがいいのではないか。

委員 条件があるわけなので、条件が合う候補事業とものがあると思うので、それを皆さんで協議すれば良いのでは。

事務局 わかりました。しばらく時間を頂きたいと思います。

・・・時間中に黒板に以下の3点を列記・・・

- ①中心市街地の活性化計画策定
- ②バイオマス発電施設を利用した新たな農林水産業
- ③スペースサイエンスタウン構想の実現に向けた取り組み

委員長 そしたら時間になりましたので再開いたします。3つの案があるようですから、

説明していただいてみなさんのご意見をいただきたいと思う。お願いします。

事務局 まずいろいろな会で、それからワーキンググループいろんな中で出てきた候補ですが、大きなのが① ②です。①が中心市街地の活性化の計画について、今の高山のほうの旧市街地が非常に最近さびれているというか、空き家が多くなって非常に少なくなっている、でも、歴史的な街として非常に価値のある町並みを整理をしているとあったので、旧商店街のところを整備して、まちづくりの拠点として、まず、外部からこられた方寄ってもらうような拠点作りとして考えました。そこに今度は直売所。買い物ができない買い物をする場所がないとして物産館があったが、直売所をもうけてそこが町内にこられた方がまずそこに来てそこからスタートして、高山地区の観光に回る場所として活用・利用した位置づけをする。

それから、人が集まるスペース、若者の新しい職業のひとつにサテライトオフィスというのがあるが、そこに若者が集まって事務所をひらくことで、肝付町の情報発信の場が生まれるなど、中心街の活性化させるにはどんなプランをたてるか、どう計画としておもしろいか、検討計画するのが①番である。

そして、②番は、バイオマス発電を利用した新たな農林水産業として書いているが、バイオマス発電については、今回のいろいろな会議で出てくることから、肝付町の目玉としての可能性があると思うため、資源の地産地消という意味で、非常に大きなアイテムではない。そして、そのバイオマス発電を利用した形で農林水産業の分野で新たに取り組み、施設野菜のコスト縮減を図るというものである。施策の中でもビニールハウスのレンタル制度を設けまして比較的若い人たちが気楽に、例えば農業振興センターを利用しまして農業ができるような地盤作りをしていただく。あわせて、山の素材量に問題がいろいろあるようなので、木材の苗を畑かんの推進種目として植えていただく、魚付け林として植え付ければ、魚場の形成にも役立つのではないかと、というひとつの計画を作るのが②番です

で③番目スペースサイエンスタウン構想とが出てくるが、昨年肝付町のスペースサイエンスタウン構想という内之浦の発射場を中心とした色んな地域作りに向けた構想をつくっているの、それを色々実現するためには、まだ具体化するものがないので、それを具体化するための計画をつくるというのが③である。

委員長 みなさんから意見いただいて、これに④があるとゆうこともありえますか？

事務局 ありえます。三つの枠以外から選ぶこともありえる。

委員 二番目のバイオマス発電を利用した農林水産業とあるが、バイオマスで発電した電気を買うということですか？

委員長 電気は電力会社に売るのは。熱を利用するということでしょうか？

委員 肝付町にもバイオマス発電をつくるとゆうこと？

事務局 ですね。作りたいという形です。

委員長 ほかに。

委員 すいません。基本的な話なんですけどこの先行型の上乗せの交付金というのは来年新たに交付金の序章みたいな位置づけになるものなのか。今何が言いたいかといたら、仮にどれかが通ったとして着手した場合、そこにやっぱパワーがかかるので、その延長線上に新型交付金がないと、厳しいんじゃないかなとおもうが。

委員 上乗せ交付金は、新型交付金の考え方のベースとなるものである。従って特にタイプⅠのほうは、広域性とか、ちゃんとした KPI の設定とか、しっかりした計画なのかで判断するのでは。

委員 それでさきほどから皆様方の意見の中で林業と漁業の話がかなり、まあ意見として出されているが、それに関する発射的なものであればなと思う。そうしないと、上乗せ交付金はこれでいき、新型交付金は別なこれでいってなると、それだけのパワーはおそらく取り組めないんじゃないかなと。

おそらく上乗せ分については皆様方の意見をまとめると、すごい地味なものになるのではないかなとおもうが、それはそれで現実的だが。もし4つ目があるとしたら、そっちの方がいいとなるかもしれない。そうすると作りとして②の話をどれだけ広げるのかな、という気もしましたけれども、ただそうすると業務がどこにあるのかなと思ってくる。

委員長 ②番についてだがバイオマス発電の規模によって電力主体なのか、熱エネルギー供給を主体とするのかという話がある。

委員 ②番で申し上げますと、勝手ながら全国 1700 から案があがってきますので審査する側から見れば何が特徴なのかということから見るとバイオマス発電はどこもある、熱利用もどこもある、発電はどこもやっている。やってないのは発電した一部を空調に使えます。これはあんまりやられない。バイオマス発電では必ず CO2 が出るから CO2 を光合成に使える、というのはあまりやっていない。従って電気も利用し熱も利用し CO2 も利用するいわゆるトリプルジェネレーションというような考え方はあまりやっていない。そういう意味ではそれなりに注目はされるとおもいます。

それでも審査する側からみれば、誰が木質チップを供給するんですか。必ずそこをつめる。実現可能性はあるかないかですよ。計画じゃない。プラントを誰が作ってどこまでを要求するかである。2 千万 3 千万だから計画を作りますって終わるかもしれない。でもそれでも実現可能を審査する側からすれば誰がプラントをつくって誰がチップを 365 日供給するか。必ず聞きたいところである。それは念頭に入れていたほうが良い。

2 千万 3 千万から調査だけするということもあるが、だめとは申し上げませんけれどもちょっとひとひねり必要かなと思う。

事務局 肝付という場所をいかしてスペースタウンでありオンリーワンじゃないですけ

ど種子島と肝付町しかないわけですからこれを売りにして一様化していくというものである。宇宙空間観測所を活用した取り組みを進めるものである。

委員 「高齢人口を増やす。これを観光資源化する。観光資源化して高齢人口を増やしてそこでおみやげとか新鮮な料理をだす。その結果求人が増える」という内容というかそれが何なのかなという気がする。だから仕事と求人が増えるというものがないと地方創生とかけ離れる。

中心市街地をしっかりとやれば求人も増えるし、きっと移住者も増えるかもしれないが、この事業は経済産業省に別な予算があるのではないと言われる。この予算は使われないんですかってことになる、ちょっとこれは勉強させて欲しい。経済産業省の予算ではできませんっていうことを考えるので。出来ないかもしれないが。

委員 5か年計画を進める中で、確かに③はかなり異色なので分離して少数部隊で進める事は可能であれば、それでいいのかなあと思うが、メインが5か年計画だとしたらひとつに労力割くとどっちもどっちになるんで、私が言っているのは比較的単純な話、もしかしたら、もともとの構想があるんであればある部隊がダーって動いていく、という話で進めればいいかなと思う。

なぜこうゆう話をしているかというと、いただいたデータを見てたらこのさきほど資料①の10ページのところに産業動向とあるが、この下のグラフで鹿児島県と肝付町との比較をしている中で、単純に一次産業の構成比を鹿児島県を分母にして肝付町を分子にした場合一次産業って1.8倍の力がある。二次産業は1.2で三次産業は0.8っていうと、数字だけだが、やはりここの地区は一次産業が牽引して、そして二次産業がついてきてという地域の独特の力があるのかなって考えた場合にやはり1次産業を基盤にして、力を補強していった方がこの土地にあっているのかなっていう気がする。五か年計画は個人的にここに注力して進めていくことになった場合、その足を引っ張らないものがどれなのかなって逆の考え方でいくと、さっきの発言の背景なのでまあ③はちょっと異質なんで③なのかなって考えた。

委員長 ①と③の合体って①の事を念頭に置いたら③のことはいいのか？

事務局 構想の中に①の計画はあります。③の中身としては①を中心に作り込む方法がある。

委員長 ②については去年肝付町の自然エネルギーの持続的エネルギーの委員会のときにあのときに私がちょっと提案したのは、そんなでかいことを考えなくても温泉ドームのボイラーをもうちょっと大きいものにして、そこであまったエネルギーを下のほうの畑かん団地に供給すれば、冬場だけの話だから十分可能じゃないかっていうふうに提案したら町長も関心を持っていたが。

発電までとなると大事になってしまうと思って。

事務局 バイオマス発電はアイデアはいいけれども実現性にまではむずかしいと思われるようである。

委員長 むしろ、今他町のほうで話があってそっちのほうがひょっとしたら実現性はあるかもしれません。発電の話は。

あとまあ10分程度ありますが、ある程度これがまとまれば、今日の会議は一応うまくいったということになるだろうと思うが、どうぞなにかあればおしゃってください。

委員 すいません、ちょっと質問です。昨年制定されたスペースタウンサイエンス構想っていうものですが、簡単でいいので教えてもらえないか。簡単でイメージだけ分かればいいんですが。

委員長 今日これを決めて、また他の議題について会議はあるのだろう。

事務局 そうである。今日は上乗せ交付金について協議してもらったところである。まだまだ決めないといけないことがある。

委員長 もう一回というのは無理だろう。このためだけに開く方法もあるが、スペースサイエンスタウン構想という以上は、中心市街地も農林水産業の業務も総合的まちづくりの計画を作ってもらうことになるだろう。

委員 この計画が具体的な戦略で、これを基に計画を10月までに作るのか。

事務局 これは交付金の計画であり、また別の案件があります。

ここで策定を決めるんじゃなくて意見を出していただくというのが目的です。で今日はこの中で①と③の合体したのがいいんじゃないかという意見でいただいたというかたちではどうだろうか？

委員長 もうあれですから、今の課長からの説明でそれでよろしいという方は挙手をおねがいできませんか？

・・・挙手多数・・・

委員長 これをもちまして、2回目の審議会を終了します。皆様の意見を町のほうでまとめていただきたいと思います。長時間にわたりお疲れ様でした。

■第3回肝付町地域創生戦略策定審議会会議録

日時 平成27年9月16日（水）午後1時30分から

場所 肝付町役場コミュニティセンター婦人研修室

委員 16名出席 7欠席

1. 開会

事務局 ただ今から第3回肝付町地域創生戦略策定審議会を開催いたします。

2. 委員長あいさつ

委員長 多方面から非常に多くの問題点・課題点がかかれておるようであります。これ

からその課題等について事務局のほうで整理されたポイントがご説明していただけたと思いますが、色んな問題点があると思います。

それぞれの課題に対しまして多額の費用をかけて、それぞれ対処するような対策を行っても、おそらくあまりうまくいかない様な気もいたします。

この先の問題・課題を掘り下げていき、どのような本質が隠れているのか？何が根本的な問題なのか？解決するための知恵がある気がしてならない訳であります。今日 で終わりではないという事ですので、どうぞ皆様方の真剣な協議をお願いしたいと思っております。

3. 協議・意見交換

【肝付町にしごとをつくり安心して働けるようにする】

委員長 では、グループごとに意見を伺いたいと思います。まず、農業分野について意見を伺います。

■ 農業

委員 ビニールハウスリース事業は、大変ありがたいです。コストが非常にかかるので、負債を抱えてスタートとなりますと、施設整備にあたり、国・県の補助事業はあるが、ビニールハウスのリース事業を行うことは大変ありがたい。

新規就農を志す者にとっては強い後押しとなり、新規就農者定着促進に大きな効果が見込める。また、組合単位助成ではなく、個人助成を行っていただきたい。ぜひやっていただけると助かります。

委員 農業問題を語るにおいて、栽培技術指導・施設整備助成など作るという観点からしか議論がされていない。農家定着を図るのであれば、売り先（販路）確保も同時に行う必要がある。生活のための所得の安定があつてこそ、地域の（農業）振興につながる。地元商店街との連携による販売、あるいは加工販売なども同時に検討すべきである。分かっていることではあるが、なかなか実行するのは難しい。その体制を確立することが、肝付そして大隅地域の課題である。

■ 漁業

委員 漁場環境保全と資源回復については、県補助事業を活用し、高山・内之浦ともに漁礁を建設中である。

漁食普及、地産地消の推進、販売促進については、組合員の経営安定のため漁協で模索中である。後継者事業者の育成・新規就労者の確保・この件についても後継者を増やし若い者を育て将来ある漁業の明かりを消さずに、育てていく方向で取り組んでいる。学校給食の連携については、魚を捌く調理師が不足している現状。加工施設の建設も含めて、漁協内で検討している。

観光業との連携については、夏場に定置網漁がない岸良地域で「地引網体験」を実施できたらと考える。

委員長 学校給食との関係はどうか。

委 員 魚は捌くには専門性があるので、生徒数に見合った調理師が必要なので、今は難しい。

■林業

委員長 CLTが国家戦略に位置づけられた。CLTについては国家戦略がすでにできおり、10年後に50万立方の生産目標をクリア21世紀ビジョンの中で明言している。現在、業者は3社であるが将来的には20社あまりになる見込み。山佐としては、5%のシェアを目指す。このためには、森林組合の協力が不可欠であるため、ご協力をお願いしたい。

委 員 林業就業改善推進事業とは具体的に？

事務局 後日表記します。

委 員 所有者不明森林の解消は、所有者等個人情報絡むため行政が行うしかない。個人情報の観点から行政は情報公開を行わないので。

事務局 情報があれば組合でも出来るという事なのでしょうか？行政・森林組合が協力し、進めていく方向でいくと思う。

委 員 所有者不明森林が解消されたからといって、KPIにあるような素材生産量の増加にはつながらない。まずは路網整備が必要である。

森林資源の利用と同時に、森林の維持（再構築）が必要。切る→植えるといった循環利用の構築である。

委 員 再生可能エネルギー事業者の誘致数は、木質バイオマスを考えての数字なのか？

事務局 それを含めての5社であります。

委 員 安心して働けるという視点から、若者が町内に一旦は就職しても、さまざまな理由から都会へ出て行く現状がある。就労改善推進の取り組みとして、若者を大事に育てるためのセミナー等の実施が必要なのでは。そのことが人口の維持・増加につながる。

【肝付町へ新しいひとの流れをつくる】

1. 移住者の受入支援

委 員 空き家は増加しているが、家財道具が置いてため、貸すことに抵抗がある

委 員 内之浦派出所付近に空き家があり町の所有と聞いているが、教員等に貸し出す等の活用は検討しないのか？

事務局 後日確認をします。

委員長 今年の山佐の新規採用（1人者）の多くが、鹿屋市にアパートを借りている現状。飲み屋・飲食店がないのが理由。あれば仕事場に近いこともあり町内居住するはず。定住を促すには、望まれる環境整備（コンビニ・飲食店・飲み屋等）が必要。

委 員 移住セミナー等を活用した都市部での情報発信が必要である。（これが定住のき

っかけになる。)

①おためし住宅による田舎暮らし体験の実施 ②生活できる仕事があること、
が定住につながる。

住宅を探すにも、1件しかない不動産、町営住宅だけでは選択肢が少ない。空き家バンク等の情報は、一軒家を望む新規就農者・田舎暮らし希望者にとっては大変ありがたい。

移住・定住するにあたって、仕事の情報だけでなく、その他の情報（病院・食事等）もあわせて情報発信した方がいい。

委員長 肝付町の昼飯は最高と評判がいい。残念なのは、地域で生産されるもの（黒豚・うなぎ等）を食べることができる店がないこと。

2. 道路交通網の整備と交通機関のネットワーク化

委員 大隅半島にも、福岡・熊本に行く高速バスの発着所がほしい。

委員 町内の道路環境を見直すなど、マイカー対応も観点にいれるべきである。

3. 魅力ある町資源の活用及び情報発信

委員 観光施策が明記されていない。拠点としての観光の考え方を入れるべきである。

【若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる】

1. 出生率を上げる戦略

委員 産婦人科が町内にないこと。鹿屋市に2件しかないことは深刻な問題。何らかの手立てを打つ必要性がある。近くに産婦人科があることは、産むきっかけになるのは明らかである。医師会とも連携を取り、町内で受診できる環境整備を行うべき。ただし、フルタイムは必要ない。

2. 結婚・子育てしやすい環境づくり戦略

委員 町内の保育園・幼稚園計8園による連絡協議会を立ち上げ、肝付の子どものことを前向きに考えている。病時病後時保育の必要性は認識しているが、保育士の問題、制度改正への適合など課題も多い。

離婚件数が増加している中、離婚後、肝付町出身の方が実家には帰らず、鹿屋市に居住することが多い現実がある。生活する金銭面を考えると肝付町の実家に帰った方がいいと思うが、病院等生活の利便性を重視して鹿屋市に居住している。子育てに魅力のある町づくりをしなければならない。

【時代に合った地域づくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する】

委員 町立病院については審議しないのか？

事務局 町立病院については、別組織があり検討委員会が組織されている。

1. 大隅の広域的な取り組みによる地域活性化

委員 大隅ではスポーツやツーリズムなどが盛んになってきている現状であるが、受入が進んでない現状がある。大隅全体で取り組む事で助長すべきである。

コスモピアと銀河アリーナで連携してスポーツ合宿の受入を行っている他地区

と連携することで更なる誘致の方向を模索すべきである。

3・中山間地域における小さな拠点

委員 買い物難民の解消について、移動販売を行っている事業者のノウハウを活用することを検討すべきである。

委員 廃校利用について川上の現状は？

事務局 川上地域ではむらづくり委員会が組織されており管理している。

4. 地方都市における経済・生活圏の形成

委員 集落がいずれ消えて無くなる集落もあるので、地域を選定し、各拠点を集約するという意見があるが、今いる地域への愛着があるので調政が必要となってくる。

6. ふるさとづくりの推進

委員 一次産業で、担い手不足となっている現状がある。耕作放棄地を利用し特産品をつくりふるさと納税につなげることはできないか？

委員 楠隼高校の生徒が定員に達していない現状がある。楠隼の保護者へ肝付町の魅力を発信し、人の流れをつくる取り組みを行っていけないか？
肝付町から楠隼中高一貫校への入学者を増やす教育活動を行うべきである。

委員 バスを走らせるだけでなく、魅力ある観光地づくりに力を入れるべきである。
地方公共交通についてニーズの無いところに事業を展開していくことが可能か？
地方創生を改めて考えると、流鏑馬とロケットといった肝付町独自のブランドがあるのでそれを利用したPRする情報発信活動を行っていくべきである。

委員長 ほかにないでしょうか。ないようですので、これもちまして、第3回の審議会を終了します。皆様の意見を町のほうでまとめていただきたいと思います。長時間にわたりお疲れ様でした。

■第4回肝付町地域創生戦略策定審議会会議録

日時 平成27年10月23日（金）午後1時30分から

場所 肝付町役場コミュニティセンター婦人研修室

委員 14名出席 7名欠席

人口ビジョン策定事業者が参加

1. 開会

事務局 ただ今から第4回肝付町地域創生戦略策定審議会を開催いたします。

2. 委員長あいさつ

委員長 本日は第4回の審議会ですが大変お忙しい中、参集していただきありがとうございます。5週間ぶりですが、その間TPPが進展したようですが、林業関連では約25年前に関税撤廃があつて激震が走り痛手を受けたのですが、それをきっかけに新しい取り組みをしたところは国際的な競争力を持ったところもあった経緯

があります。きびいしいことだが若い方々には今のこの状況乗り越えて新しいことに打って出て欲しいと思う。

この地域創生に乗っているような町を目指して行って欲しいと思う。

本日はよろしくお願いします。

3. 町長あいさつ

町 長 本当にお忙しい中ありがとうございます。今朝の新聞に本町出身の戸柱君横浜ベイスターズに指名されるなど、若い人ががんばっているようである。委員長からも話があったが、ＴＰＰについても黒船来襲と同じような変革が起こっていると思っている。ただ、何も対応しなければ地域は消滅する。個々できちっと対応して未来に向かっていく協議が必要であり、そこに活路は必ずある。情報が少ないので今どうすることは出来ないが、町でも各課で農林水産部門だけでなく建設課、福祉課で情報収集をしている。

今日は地方創生審議会の最終になる。ここには本当に重たいものが集約されている。先般は若手ワーキンググループの会があったが、そこで発表してくれた農業青年の下園さんが、地区の大会を勝ちぬき、全国大会に進むことで事例発表をしてもらった。すばらしい内容であった。本当に若い人たちが頑張っていると認識した。今日審議をしていただくこのこともが、若い人たちが安心して暮らし、チャレンジできるようなものになっていけばいいなと思う。

よろしくおねがいします。

3. 協議

(1) 肝付町人口ビジョン報告

委員長 それでは会次第に従って、肝付町人口ビジョンについて、説明をお願いします。

事業者 説明します。

・・・町の人口動向の現状や平成７２年に人口の目標値を９，１００人で推計したことを中心に説明・・・

委員長 ただいまの説明に対して、何か質疑等ございませんか。

３８ページにみたいに上がってくれば良いですが・・・

事業者 転出をどれだけ抑制するかだと思う。

委員長 今で出生数はどれくらいいるのか。

事業者 ６ページに表がある。１００名前後である。

委 員 現在の１．８８６が２０２０年は１．８２４になっているのは。

事業者 これは５年間の平均で推移しているので、減っていく。

委員長 ほかになければ、次の議題にいきます。肝付町地方創生戦略案の報告です。

(2) 肝付町地方創生戦略（案）の報告

事務局 案として冊子の形にまとめたので、報告します。本日見ていただき加除修正があればしていただくことになります。そして、２９日に戦略本部を開催します。

そこで最終定に決定させていただくことになります。

最初の方は、文章ですので、要点のみ説明します。

・・・第1章から第3章までと、第4章の「基本目標1：肝付町にしごとをつくり、安心して働けるようにするについて」資料を説明・・・

委員長 何か意見があればお願いします。

委員長 農業に比べて林業に具体的な施策がない。主管課と打ち合わせをしたとあるが、ここに記載してあるのは既存事業だけである。新規事業ではない。これで果たして地方創生として妥当かどうか疑問に感じる。ワーキンググループや審議会の意見を反映したとあるがこれだけで良いのかと思う。

事務局 林務水産課へつなぎます。

委員 また、路網整備は新規林道開設も含むのか。組合と主管課との協議になるのか。

事務局 含む。協議になると思う。

委員長 K P I の素材生産量現状 22,000 m³ 目標 30,000 m³ は正しい数値なのか。

事務局 確認します。(確認結果 県が確認している民有林の分が記載してある。)

委員 水産に対する支援策だが、自分たちは経営が良くなしないと規模拡大が出来ない。国が保証人になってもらえればよいが、ある程度経営が良くないとなってくれない。銀行の支援があれば経済効果も上がってくるのではないか。町がなくなれば規模拡大が出来る見込みがあるのだが。地方創生を考えているのであれば本腰をあげて欲しい。

委員 地域おこし協力隊による創業。制度を活用したらどうか。事業者向けの支援になるが。

委員 盛りだくさんある。5年間でやるのであれば優先順位をつけないと限界がある。

委員長 全体的に供給側の施策は記載してあるが、どう販売していくなど需用側の施策が弱いような気がする。町内産消費の記載があればどうか。物産館は町外向けの色が強い。

事務局 「基本目標2：肝付町へ新しい人の流れをつくる」について資料を説明

委員長 教育関係の方の意見を聞きたいですが。

委員 町中央図書館の建設は活用がされることが大事であるので、どういう人たちをターゲットにしているのか。各小中学校に図書室があるので対象者を考えて対策をたてたほうがいい。

小中一貫校は、生徒数等を考慮して進めていった方がいいのでは。それ次第で学校数が決まるのではと思う。

事務局 図書室利用は多いのだが、蔵書スペースが不足しているといった要望があって、出されたようです。

委員 中高一貫校の話が出ましたが、外部と内部の人間の割合はどれぐらいなのか。全国公募ときいたが本当なのか。

委員 そうである。

委員 そうなると間違いなく人口の社会増であり、さらにその方々がこちらに大学等を卒業して帰ってくるといいなあと思う。

委員 全体が、中学校が60名で、高校が37名でうち半数ぐらいが県外である。ただし、県の方での取り組みである。

委員 公共交通のネットワークについては早急に対応したほうがよい。既存バスとの連携が悪い。今後の課題だと思う。観光、交流人口に永久があるので今後の課題として取り組むべきである。

事務局 「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」について資料を説明

委員長 関係者の方の意見を聞きましょうか。

委員 今後20代、30代の方が結婚しやすい環境がつかれるかだが、ここの施策が出来ればすばらしい。働きながら子育てしている方への支援、小さい子供を預かる制度、待機児童対策を今後考えてもらえれば住みやすい町になるのでは。

委員 これだけの施策が本当に出来れば、子育てしやすい町になると思うが、ショートステイは保護者が望んでいることだろうが、町が実施主体なのか。保育園がするのであれば、現在いる園児以外に見ることになるので、補助制度が必要である。さらに問題は、保育士が足りない状況であり、難しいと思う。実際保育士がいない。新しい子育て支援事業をしたいが、保育者数が足りないので出来ないのが実情である。鹿屋までは帰ってくるが、肝付町に来てくれない。勤務地に鹿屋市を選ぶ。なかなか現場は取り組みたくても出来ないのが実情である。

事務局 「時代にあった地域づくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」について資料を説明

委員 東九州自動車道が鹿屋まで来た。他県ナンバーが多いと聞いている。人の流入が増えると思うので。もともと道の駅は休憩施設が目的であったが、物産館も併設してきているので、道の駅の効果も上がる。国交省としては支援したい。インフラの長寿命化も推進しているので、橋梁等の点検に5年に1回するとあるのでありがたい。防災拠点として人が普段集まる場所が良いので道の駅をもし作られるのであれば、円滑な活用ができる。

委員長 貴重な意見ありがとうございます。

委員 広域的な取り組みとして、記載があるが、対外的に人を呼び込むには大隅で取り組まないといけない部分もある。そちらを進めていただきたいと思う。

全体的なところだが、年間で実績が出るもの、毎年検証するもの整理した方が良いのでは。実行性があるのかどうか、これだけの事業をするのは大変である。具体的施策を数えると130ぐらいになる。すでに実施済みや決定したものは今回の戦略から思い切って除いてはどうか。新型交付金の対象となるものか、検証作業が大変である。KPIが多すぎるので、事業ごとに1つぐらいが良い。検討→

実施などについては、ＫＰＩは基本的に数値目標であるためＫＰＩから除くべき。
事業の優先順位をつけるべきである。

あと、年号が西暦、平成混在しているので統一を。

事務局 具体的なアクションプランについては５年間でいつ実施するかなど、今後計画していくところだが、ＫＰＩや、既存事業等の削除等については、戦略本部会で提案する。

委員長 他の方から何かのですか。ないようでしたら全体で何かないですか。

委 員 健康寿命は、交通事故等でなくなれた方も含めているのか。

委員長 健康寿命とはどういうものか。

事務局 調べて報告します。

委 員 低いような気がしたものですから。

委員長 九州経済産業局石丸参事官講評をお願いします。

委 員 短期間でしたが、よくまとまれたと思う。今後は、事業の熟度をあげていく
必要があり、ＰＤＣＡサイクルであげていかなければならないが、今回の計画の
特徴は行政だけでなく、関係機関と一緒に進めていくところである。今回
金融機関がおられるが、まず新型交付金を取りにいき、そうでないものは各省庁
の地方創生関連補助金を使うことになるが、事業を継続するには金融機関の支援
があって成り立つところもある。そして地方創生は５年ではなく、それ以上継続
していく必要であるので、地域全体で金融関係と連携をしていくことが必要である。
委員の方も含めて共通認識を持ち、肝付町の地方創生に進んでいって欲しい
と思います。

委員長 ありがとうございました。もう一回集まるのか。

委 員 委員長のほうで、皆様に最後は本部会に一任し、審議会はその報告を受ける形で
いいか、意見を聞かれた方が良いのでは。

委員長 わかりました。では、今日の意見を考慮していただき、最終案は本部会に一任す
ることによろしいか。

委 員 はい。

委員長 みなさま、ご協力いただき大変ありがとうございました。

事務局 ありがとうございました。これをもちまして第４回審議会を終了します。

■地域創生戦略本部ワーキンググループ意見交換会

	現状の課題	手法	施策
仕事を つくる	・移住者のための住居がない ・無農薬有機安心安全な野菜を作っている人が分からない ・漁業の後継者不足 ・給料が安く若者が少ないため後継者不足 ・新たな仕事として、既存の仕事を持ち込む ・野菜の産地作り ・本町の基幹産業の農業・水産業の弱体化 ・商店街の高齢化による機能低下 ・日用品の町外店舗での購入 ・福祉現場では離職率や定職率の問題が深刻 ・畜産業では高齢化が深刻であり、また浮き沈みが激しい。 ・資格取得が大変 ・若者にとって魅力的な業種がない ・繁華街がない ・収入に不安があり自身を持ってついで欲しいといえない。 ・待遇の問題がある ・後継者としての不安があるが、親が仕事に対しての意見を言わない。	・空き家提供者への呼びかけ ・空き家再生活用者を呼び込む ・WEB、パンフレット、交流会を通じて生産者を紹介 ・定置網体験を実施し、漁業に興味を持ってもらう。 ・漁業体験イベント・漁業便りの配布・海産物販売 ・若者が気楽に集まる場を作る ・外部から田舎に acog えられる人材を引き込む ・仕事に給料以外の付加価値をデザイン化し発信アピールする ・技術を身につける（3年から5年）支援や資格取得への環境づくり ・インターネット経由で地方でも仕事出来る業種（プログラマー、デザイナー）を呼びこむ ・具体的に何をつくるのか ・魅力ある収入の見込みと農業振興センターの積極的活用 ・若手経営者の育成支援 ・農林水産業法人の誘致	・空き家マッチング法人に助成 ・産物マーケティング宣伝部への売り込み ・空き家マッチング法人とタイアップして滞在型・体験型漁業観光を企画 ・シェアオフィスの提供・補助 ・他の自治体の成功事例の勉強会を開催 ・雇用を創出している事業所への各種助成 ・販路の斡旋、町をあげた商品アピール ・6次産業化を推進。加工場建設への助成 ・肝付ブランドの立ち上げ ・農業指導者及びアドバイザー制度の設立 ・各種資格取得助成制度の導入 ・JAXA 関連企業の誘致を図る ・町のイメージアップになるような業種については税の軽減や初期費用の助成を行う ・個人経営の法人化が進めばよい。 ・魚の放流事業の拡大と魚場改善 ・肝付町独自ブランドの開発 ex.カンゾウ入りジュー

	・農業は年間雇用が難しい。 ・力仕事が多い ・せっかく資格をとっても地元で活かせる職場がない ・肝付町は山が多い	・道の駅など、町外の人 が肝付町に来る目的を創 出する。 ・肝付町の自然の特性を 生かした「地域ブランド」 の創出 ・子供のころからの手伝 いを進め、受け継げる環 境をつくってやる。 ・農業を始めようとする 人に土地と家を貸し出 す。 ・農業なら農業に注力し た町にする。 ・ネットやアニメなど流 行の業種について誘致を 図る。(大人数の雇用はな いがイメージアップには なる) ・給料だけの問題ではな く自分でする仕事を見つ ける ・子育て中の母親の働き 場所の確保 (月〇〇日 何時から何 時まで) ・作物が異なる農家が農 繁期のズレを利用し、農 家同士で年間雇用を確保 ・木材生産・森林整備促 進のため林道整備を行う ことで、建設業も潤う	ス、歯磨き粉 ・イプシロン部品の組立工 場をつくる ・CLTの事業化を進める ・肝付町のアイドルをつく る
--	---	---	--

転出を抑え、転入を促す	・1次産業のイメージの改善 ・町内にどんな企業があるか知らない。 ・貸家がない ・町内に貸家がないので町外を選んでしまう ・内之浦・高山間の距離の問題が大きい ・仕事を探したいが、家から遠い。鹿屋に住んでいるが家賃が高い。 ・一人暮らしをしたいが貸家やアパートがない ・住む場所がない ・住む家がない ・田舎になるほど過疎化が深刻 ・ネット情報を見ても肝付町は取り残されている感を感じる ・生活に不便 ・転出者が多い ・高校・大学を作る ・高齢者は地元で買い物が出来ないので家族のいるところへ転出する。 ・町内に家を建てない移住者が悩み相談できるところがない。 ・海岸沿岸部のアクセスが悪い。 ・親子でただで楽しめ	・イベント開催 ・小中学校で農業教室を開催 ・企業照会や求人についての情報提供 ・空き家の有効活用 ・町内で働き、町内に住む者への支援（住宅の提供や支度金の助成） ・各業種間の定期的な交流会情報交換会の開催 ・若者でも手の届く住宅の提供 ・若者が住みたいと思うような町づくり ・まだ収入が少ない若年者の家を見つけやすくする。 ・建売住宅やリフォーム住宅の提供（10年済むと自分のものになる） ・住宅取得助成金 ・Iターン者の意見をもっと実施する。 ・ディズニールランドのそばに住もうとは思わないが流行っているものを感じられるような環境づくりが必要 ・外から呼ぶことも大事だが、肝付町に生まれ育ったことを良かったと思える環境づくりが必要 ・企業の誘致し外国人を受け入れる	・広報紙やホームページで紹介 ・水力・風力発電施設の建設推進し税収の増を図る ・婚活事業により転出を抑制 ・週末医療施設の整備 ・高齢者向けの最後の楽園づくり ・シェアハウスの整備（独身者向け・シングルマザー向け・職種別） ・シャッター街の上階に住宅を設ける ・若年者の転入者へ敷金を助成（後で返還） ・外部からより留町者への助成を充実させる。 ・大きな商業施設を誘致しテナントに地元商店を入れる ・やぶさめまつりでのキャラクターショー。流行っているものを呼んで欲しい。 ・ニコニコ町会議 ・フェイスブックの活用により訪問者は多い。 ・町の文化歴史を住民に勉強してもらおう。町の歴史の伝承。 ・人を育てる・人が集う場所を作る・人が歩く商店街を作る。 ・遊覧船を出す。（災害対策をかねる） ・インターネット注文シス
--------------------	--	--	--

	る場所がない。	・魅力ある街づくりを。 ・他の地域よりすばらしいところをアピール ・地域全体のイメージデザイン化 ・町外の人が足を運んでくれるような仕組みづくり。 ・町の空き地を活用する。 ・食品・日用品の個別宅配。	テムの確立。(安否確認にもなる) ・移住者交流会の実施 ・農林水産業の専門学校の設立 ・銀河の森として山のテーマパークを作る。 ・クラウドファンディングの設立。提供者には特産品を
子育て支援	・産婦人科・小児科・皮膚科不足 ・児童公園がない。 ・歩いていける子供の遊び場がない。 ・子供の自立のとき借金額が大きい。 ・子育てに関する助成金に魅力がない。 ・母親の意見の場がない。 ・暮らしにくい。 ・子育てに対する助成等が少ない。 ・出会いの機会が少ない。 ・子供たちへの支援があまりないのでは。	・婚活事業を実施 ・空き地の活用 ・子供たちに田舎の生活を体験させ、町の自然のよさを教える。 ・医療費助成金の対象枠の拡大 ・楠隼中高の共学化 ・母親同士の交流が生まれる。 ・経済的支援制度 ・子供が病気のときの助け合い制度 ・こうした交流会を実施 ・子供に学校・高齢者にサロンがあるように若者が自然に集まれる環境が必要。 ・パーティ形式もいいが1対1でのこまかいフォローが大事 ・町が地元高校生用に鹿屋市内に寮をつくる。 ・子育てに関する町独自	・おせっかいおばさんを育てる。 ・病気になって時の助け合いが生まれる。 ・病児保育制度の構築 ・若者が集う環境の提供 ・女性会を活用した独身者の掘り起こし ・夏休みに体験学習の実施 ・空き施設を子供たちに開放 ・子供補助金 ・教育機会の充実

		の助成を実施。 ・ 子供遠足バスの補助 ・ 第1子からの支援 ・ 若いお母さんが住みたいと思える町にする ・ 町立病院の充実	
--	--	--	--